

令和5年度

第1回上天草市地域公共交通活性化協議会

上天草市地域公共交通活性化協議会

令和5年5月31日

令和5年度第1回上天草市地域公共交通活性化協議会

日時：令和5年5月31日（水）交通会議終了後

場所：上天草市役所大矢野庁舎書庫棟2階会議室

1 開会

2 委員紹介

3 議事

- (1) 議案第1号 上天草市地域公共交通活性化協議会役員を選任について
- (2) 議案第2号 令和4年度決算及び会計監査について
- (3) 議案第3号 上天草市地域公共交通網形成計画記載事業の事業評価について
- (4) 議案第4号 令和5年度予算（案）について
- (5) 議案第5号 令和5年度取組（案）について

4 その他

5 閉会

上天草市地域公共交通活性化協議会役員の選任について

上天草市地域公共交通活性化協議会には次の役員を置く必要があり、上天草市地域公共交通活性化協議会規約第7条第2規定の規定より、委員の中から選任するもの。

(1) 監事 2名

任期 令和5年5月31日～令和6年6月23日（前任者の残任期間）

役職名	役員職名	氏名
監事	上天草市区長連合会副会長 姫戸支部代表理事	糺本 佐戸之
	上天草市区長連合会副会長 龍ヶ岳支部代表理事	瀬脇 庫一

(参考)

任期 令和4年6月24日～令和6年6月23日

役職名	役員職名	氏名
監事	上天草市区長連合会副会長 阿村・教良木河内支部代表理事	藤本 力
	上天草市区長連合会副会長 姫戸支部代表理事	山下 幸盛

議案第2号

令和4年度決算及び会計監査について

令和4年度上天草市地域公共交通活性化協議会 決算書

●収入

(単位：円)

款	項	目	節	予算額 (A)		収入済額 (B)	比較 (B-A)	実績			
				当初	補正予算等						
1	負担金	1	負担金	1	市負担金	7,662,500	△ 1,732,500	5,930,000	0	上天草市負担金 補正額	5,930,000円 △1,732,500円
2	補助金	1	補助金	1	補助金	1,237,500	0	1,237,500	0	国土交通省所管令和4年度地域公共交通調査事業(計画策定事業)補助金	
3	繰越金	1	繰越金	1	繰越金	1,305,086	0	1,305,086	0	令和3年度からの繰越し	
4	諸収入	1	諸収入	1	雑入	14	0	16	2	預金利息	
合計						10,205,100	△ 1,732,500	8,472,602			

●支出

(単位：円)

款	項	目	節	予算額 (A)		支出済額 (B)	比較 (A-B)	実績		
				予算額	補正予算等					
1	1	会議費	1	報酬	140,000	△ 107,000	33,000	0	第5回会議(書面)委員報酬5人×1回(源泉徴収税額を含む。) 33,000円 <修繕費へ補正 △107,000円>	
				費用弁償	71,000	△ 71,000	0	0	<修繕費へ補正 △71,000円>	
				消耗品費	10,000	0	0	10,000		
	2	事務費	1	事務費	15,000	0	8,976	6,024	ラベルシール 8,976円	
				役務費	15,000	0	4,730	10,270	振込手数料 4,730円	
				償還金	0	1,237,500	1,237,500	0	国土交通省所管令和4年度地域公共交通調査事業(計画策定事業)補助金を上天草市へ返還 1,237,500円	
2	事業費	1	事業費	9,900,000	△ 2,970,000	6,930,000	0	計画策定委託業務料 6,930,000円		
			修繕費	0	178,000	99,000	79,000	さんばーるバス停ライン(区画線)引き業務 99,000円 <会議費から補正 178,000円>		
3	予備費	1	予備費	1	予備費	54,100	0	0	54,100	
4	繰越金	1	繰越金	1	繰越金	0	0	159,396	△ 159,396	令和5年度へ繰越し
合計						10,205,100	△ 1,732,500	8,472,602		

令和5年5月22日

上記のとおり報告いたします。

上天草市地域公共交通活性化協議会 会長 柿本 竜治



会計監査報告

監査の結果、収支決算書は関係帳簿、通帳等と符合し、
適正に処理されていることを認め相違ないことを報告します。

令和5年 5月 12日

監事 藤本 力 

令和5年 5月 12日

監事 山下 幸盛 

令和4年度上天草市地域公共交通網形成計画記載事業の事業評価について

上天草市地域公共交通網形成計画（以下「形成計画」という。）に掲げる施策・事業について、令和4年度中における各事業の実施状況及び効果、改善の方向性等の検証・検討を行いました。

1 形成計画に掲げる課題解決に向けた対応方針（基本方針）及び目標

(1) 方針1 持続可能な地域公共交通網の形成

目標① 地域公共交通の維持・確保

(2) 方針2 ターゲットや役割分担を明確にした地域公共交通体系の構築

目標② 地域資源を活用した地域公共交通の導入

目標③ 新たな地域公共交通の導入

(3) 方針3 地域公共交通の利用促進及び需要創発

目標④ 地域公共交通に対する市民の意識改善

目標⑤ 観光客などの地域公共交通の利便性向上

(4) 方針4 市民と一体となり持続可能な地域公共交通に関する仕組みの構築

目標⑥ 地域公共交通に関する新たな仕組みづくり

2 令和4年度目標の達成度を測る指標、目標値及び評価方法

目標	指標	目標値	評価方法
①	路線バスの年間利用者数	161,000人	路線バスの年間利用者数を確認し、事業実施の効果及び改善策等について検討します。
	路線バスに係る年間赤字補てん額	93,000千円	路線バスに係る年間赤字補てん額を確認し、事業実施の効果及び改善策等について検討します。
	乗合タクシーの年間利用者数	8,890人	乗合タクシーの年間利用者数を確認し、事業実施の効果及び改善策等について検討します。
	乗合タクシーの収支率	33%	乗合タクシーの年間収支率を確認し、事業実施の効果及び改善策等について検討します。
②	スクールバスと路線バス等が連携した新たな地域公共交通の導入地域数	3地域	導入地域数に加え、新たな地域公共交通の利用者の要望等を整理し、事業実施の効果及び改善策等について検討します。
③	新たな地域公共交通の導入地域数	1地域	新たな地域公共交通の導入地域数・内容を踏まえ、今後の導入可能性について検討します。
④	地域公共交通座談会の実施件数	4件/年	座談会の実施件数・内容を踏まえ、参加者の意見等を整理するとともに、高齢者運転免許証自主返納者数の状況も整理し、事業実施の効果及び改善策等について検討します。
	市役所職員を対象としたノーマイカーデーの実施件数	1回/週	ノーマイカーデーの実施件数・内容に加え、参加率や参加者の意見等を整理し、事業実施の効果及び改善策等について検討します。
⑤	路線バスを活用した	3件	路線バスを活用した観光施策の件数・内容に加

	観光施策の件数		え、観光客（利用者）の要望等を整理し、事業実施の効果及び改善策等について検討します。
⑥	地域と連携した利用促進の実施件数	1件/年	地域と連携した利用促進の実施件数・内容に加え、地域からの要望等や利用者の評価等を整理し、事業実施の効果及び改善策等について検討します。

3 事業評価

(1) 方針1 持続可能な地域公共交通網の形成

目標① 地域公共交通の維持・確保

種別	路線バス														
目標	<ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数 161,000人 年間赤字補てん額 93,000千円 														
事業概要	<p>持続可能な地域公共交通網を形成するとともに、ターゲットや役割分担を明確にした地域公共交通体系を構築することで、地域公共交通の維持・確保を図るもの。</p> <p>なお、これらの取組により、高齢者が安心して便利に生活できるための移動手段を確保するとともに、運転免許証の自主返納の推進を図り、安全・安心な生活環境の構築を目指す。</p>														
実施主体	市、交通事業者、地域住民														
事業実施の適切性 A：適切 B：概ね適切 C：不適切	A	<ul style="list-style-type: none"> 大矢野町登立地区及び上島地域における路線バスの利用状況を踏まえ、一部路線廃止に係る手続を行っている。併せて、代替交通（地区乗合タクシー）の新規導入等の準備を進めている。 年末年始のダイヤ変更など、運行の効率化及び利便性の向上を図っている。 運転免許返納者に2,000円分の交通系ICカードを無料提供している。（令和4年度実績53件） 年度当初に全ての行政区に時刻表を配付している。 													
目標・効果達成状況 A：達成 B：概ね達成 C：未達成	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数は116,409人で、指標と比べると44,591人（指標比72.3%）少ない。これは、前年度と同様、目標設定時には予見できなかった新型コロナウイルス感染症の影響等のやむを得ない事情により、利用者数が伸びなかったもの。 年間赤字補てん額は121,872千円で、指標と比べると28,872千円（指標比131.0%）多い。これは、利用者減少による収益減に加え、目標設定時には予見できなかった燃料高騰等の影響を受け、路線バス運行経費が増加したことによるもの。 <p>【過去3か年の実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間利用者数</td> <td>154,615人</td> <td>126,426人</td> <td>121,821人</td> </tr> <tr> <td>年間赤字補てん額</td> <td>115,551千円</td> <td>114,391千円</td> <td>114,998千円</td> </tr> </tbody> </table>		指標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	年間利用者数	154,615人	126,426人	121,821人	年間赤字補てん額	115,551千円	114,391千円	114,998千円
指標	令和元年度	令和2年度	令和3年度												
年間利用者数	154,615人	126,426人	121,821人												
年間赤字補てん額	115,551千円	114,391千円	114,998千円												
事業の今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況のモニタリングや、地域のニーズ調査を行い、その結果を基に、路線網又はダイヤなど、運行の見直しを行っていく。 鉄道、コミュニティバス、定期航路等の多様な交通モードとの乗継利便性の向上を目指し、ダイヤ改正を適宜行うなど、路線バスの利用促進を図る。 														

種別	地区乗合タクシー																																																																			
目標	<ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数 8,890 人 収支率 33.0% 																																																																			
事業概要	路線バスの事業概要と同じ																																																																			
実施主体	市、交通事業者、地域住民																																																																			
事業実施の適切性 A：適切 B：概ね適切 C：不適切	A	大矢野町登立地区及び上島地域及びにおける路線バスの一部廃止に伴い、その代替交通となる地区乗合タクシーの新規導入及び既存地区乗合タクシーの運行内容の変更に係る手続を行っている。																																																																		
目標・効果達成状況 A：達成 B：概ね達成 C：未達成	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数は9,708人で、指標と比べると818人(指標比109.2%)多く、利用促進が図られている。 収支率は約27.9%で、指標と比べると5.1ポイント下回っている。地区ごとにみると、樋島地区しか指標を上回っておらず、これは利用が低調であることに加え、新型コロナウイルス感染症感染予防のため、利用者に相乗りを避ける傾向があり、相乗率が低かったことが要因の一つとして考えられる。 <p>【地区ごとの年間利用者数及び収支率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地区</th> <th rowspan="2">年間利用者数</th> <th rowspan="2">収支率</th> <th colspan="2">収支率=②/①</th> </tr> <tr> <th>運行経費①</th> <th>利用収益②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>維和A地区</td> <td>768人</td> <td>20.5%</td> <td>1,592,710円</td> <td>326,000円</td> </tr> <tr> <td>維和B地区</td> <td>1,331人</td> <td>23.7%</td> <td>2,648,690円</td> <td>628,250円</td> </tr> <tr> <td>長砂連・野米地区</td> <td>3,164人</td> <td>30.3%</td> <td>2,831,400円</td> <td>858,600円</td> </tr> <tr> <td>白涛・東満地区</td> <td>288人</td> <td>21.3%</td> <td>399,980円</td> <td>85,350円</td> </tr> <tr> <td>夏・唐地区</td> <td>227人</td> <td>19.3%</td> <td>360,450円</td> <td>69,400円</td> </tr> <tr> <td>大作山地区</td> <td>51人</td> <td>20.5%</td> <td>124,210円</td> <td>25,500円</td> </tr> <tr> <td>樋島地区</td> <td>3,787人</td> <td>35.4%</td> <td>2,934,110円</td> <td>1,037,950円</td> </tr> <tr> <td>樋合地区</td> <td>92人</td> <td>30.9%</td> <td>129,650円</td> <td>40,000円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9,708人</td> <td>27.9%</td> <td>11,021,200円</td> <td>3,071,050円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【過去3か年の実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間利用者数</td> <td>11,530人</td> <td>10,386人</td> <td>9,867人</td> </tr> <tr> <td>収支率</td> <td>31.9%</td> <td>29.8%</td> <td>29.2%</td> </tr> </tbody> </table>			地区	年間利用者数	収支率	収支率=②/①		運行経費①	利用収益②	維和A地区	768人	20.5%	1,592,710円	326,000円	維和B地区	1,331人	23.7%	2,648,690円	628,250円	長砂連・野米地区	3,164人	30.3%	2,831,400円	858,600円	白涛・東満地区	288人	21.3%	399,980円	85,350円	夏・唐地区	227人	19.3%	360,450円	69,400円	大作山地区	51人	20.5%	124,210円	25,500円	樋島地区	3,787人	35.4%	2,934,110円	1,037,950円	樋合地区	92人	30.9%	129,650円	40,000円	合計	9,708人	27.9%	11,021,200円	3,071,050円	指標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	年間利用者数	11,530人	10,386人	9,867人	収支率	31.9%	29.8%	29.2%
地区	年間利用者数	収支率	収支率=②/①																																																																	
			運行経費①	利用収益②																																																																
維和A地区	768人	20.5%	1,592,710円	326,000円																																																																
維和B地区	1,331人	23.7%	2,648,690円	628,250円																																																																
長砂連・野米地区	3,164人	30.3%	2,831,400円	858,600円																																																																
白涛・東満地区	288人	21.3%	399,980円	85,350円																																																																
夏・唐地区	227人	19.3%	360,450円	69,400円																																																																
大作山地区	51人	20.5%	124,210円	25,500円																																																																
樋島地区	3,787人	35.4%	2,934,110円	1,037,950円																																																																
樋合地区	92人	30.9%	129,650円	40,000円																																																																
合計	9,708人	27.9%	11,021,200円	3,071,050円																																																																
指標	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																																																	
年間利用者数	11,530人	10,386人	9,867人																																																																	
収支率	31.9%	29.8%	29.2%																																																																	
事業の今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況のモニタリングや、地域のニーズ調査を行い、その結果を基に、利便性の向上を目指し、ダイヤ改正など、運行内容の見直しを行っていく。 地区単位での収支率及び相乗率を改善するため利用促進策を検討し、実施する必要がある。 導入地区へ利用状況等を周知するチラシを配布するなど、効果的な情報発信を行う。 																																																																			

(2) 方針2 ターゲットや役割分担を明確にした地域公共交通体系の構築

目標② 地域資源を活用した地域公共交通の導入

目標	スクールバスと路線バス等が連携した新たな地域公共交通の導入地域数 令和4年度 1地域 ※平成30年度～令和4年度 3地域	
事業概要	地域に存在する交通資源等を活用した新たな地域公共交通を導入することで、効果的・効率的な運行形態を目指すもの。 なお、これらの取組を行うことで、小・中学生などの免許を持たない交通弱者の移動手段の確保に加え、高齢者などの移動手段の確保も併せて実施する。	
実施主体	市、交通事業者、地域住民、関係機関	
事業実施の適切性 A：適切 B：概ね適切 C：不適切	B	スクールバスの運行状況を聞き取り、路線バスと連携するための課題の洗い出しを行っている。
目標・効果達成状況 A：達成 B：概ね達成 C：未達成	B	児童・生徒の帰宅のためのスクールバスは、終業時間により運行時間が変わることがあり、定時の運行ができ難いときがあることが課題の一つとして確認できた。
事業の今後の改善点	スクールバスだけでなく、既存輸送サービスの活用も視野に入れ、地域の需要に応じた柔軟かつ効率的な運行形態を模索する必要がある。	

目標③ 新たな地域公共交通の導入

目標	新たな地域公共交通の導入地域数 1地域 ※平成30年度～令和4年度 1地域	
事業概要	現在、路線バスやタクシーなどの交通事業者が直面している、運転手不足や運転手の高齢化等の問題解決を図ることを目的に、地域公共交通に関する技術的・制度的な動向を踏まえ、客貨混載やその他新たな地域公共交通の導入を目指すもの。 なお、新たな地域公共交通により、高齢者等の買物難民問題や地域産業の支援など人流・物流も含め、今後直面する多面的な問題の解決を目指す。	
実施主体	市、交通事業者、交通管理者、道路管理者、地域住民、関係機関	
事業実施の適切性 A：適切 B：概ね適切 C：不適切	B	市内を運行する福祉輸送などの輸送サービスの現況調査を行っている。
目標・効果達成状況 A：達成 B：概ね達成 C：未達成	B	上記の調査結果を踏まえ、各種輸送サービスに係る担い手確保に向けた手法等の検討を行っている。
事業の今後の改善点	担い手確保に向けた調査・検討及び既存輸送サービスの活用可能性調査を行い、持続可能な公共交通体制を構築する必要がある。	

(3) 方針3 地域公共交通の利用促進及び需要創発

目標④ 地域公共交通に対する市民の意識改善

<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域公共交通座談会の実施件数 年4回 ・ 市役所職員を対象としたノーマイカーデーの実施件数 週1回 ・ 地域公共交通だよりの発行 年2~3回 	
<p>事業概要</p>	<p>地域公共交通の利用促進や需要創発などを目的に、地域公共交通に対する市民の意識改善を目指すもの。</p> <p>なお、これらの取組を行うことで、地域公共交通の利用のみならず、まちへの愛着育成などを支援し、将来的な定住促進への寄与を目指す。加えて、高齢者による自動車運転の危険性を啓発し、運転免許証の自主返納の検討や地域公共交通の利用を促進する。</p>	
<p>実施主体</p>	<p>市、交通事業者、地域住民</p>	
<p>事業実施の適切性</p> <p>A：適切 B：概ね適切 C：不適切</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年10月からの公共交通の再編に係る対象地区の区長（13人）を臨戸訪問して説明し、また、区長説明会を開催し（5回）、地域の要望等を聞き取り、意見交換等を行っている。加えて、地域から要請があった場合は、公共交通の再編内容を説明し、意見交換等を行っている。 ・ 市役所職員を対象としたノーマイカーデーについては、新型コロナウイルス感染症防止の観点から実施していない。 ・ 地域公共交通だよりの発行については、上天草市地域公共交通会議及び上天草市地域公共交通活性化協議会における協議結果内容を周知するため、4回発行している。
<p>目標・効果達成状況</p> <p>A：達成 B：概ね達成 C：未達成</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の公共交通の現状及び今後の展望を広く周知できたことにより、市民の公共交通への関心度は高まったものと考えられる。また、園児を対象としたバス乗り方教室が好評で、バスを身近な存在として感じていただけた。 ・ 地域公共交通だよりは、行政区班回覧及び市ホームページに掲載し周知を行っており、幅広く情報発信ができています。
<p>事業の今後の改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適宜座談会を開催し、地域の要望等を聞き取り、利便性の高い公共交通を構築する。 ・ 地域公共交通だよりは、定期的に発行し、市民の公共交通に関する関心度向上に努める。 	

目標⑤ 観光客などの地域公共交通の利便性向上

目標	路線バスを活用した観光施策の件数 3件	
事業概要	観光客をターゲットとした地域公共交通体系の構築や観光関係機関と連携した路線バスを活用した観光需要の取り込みに向けた取組を実施し、地域公共交通の利便性増加を図ることで、観光客などの地域公共交通の利用増加を目指すもの。 なお、これらの検討を行うことで、観光客などの交流促進・拡大を目指す。	
実施主体	市、交通事業者、地域関係者（観光施設、商業施設等）	
事業実施の適切性 A：適切 B：概ね適切 C：不適切	B	観光需要の取込みに向けた取組を検討するに当たり、天草四郎観光協会から観光客の移動手段や行き先などについて聞き取りを行っている。
目標・効果達成状況 A：達成 B：概ね達成 C：未達成	B	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の移動手段などが把握でき、路線バスとの連携に係る課題の洗出しができた。 観光需要の取込みとして、三角駅と市の観光拠点の一つである松島町合津前島地区までの交通ネットワークの強化（路線バス「さんばーる～三角病院」の延伸）を検討している。
事業の今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の移動実態より観光需要の取り込むための課題を整理する。 既存の地域公共交通を活用した観光プランの創設について、先進地の事例を研究する必要がある。 	

（４）方針４ 市民と一体となり持続可能な地域公共交通に関する仕組みの構築

目標⑥ 地域公共交通に関する新たな仕組みづくり

目標	地域と連携した利用促進の実施件数 1件	
事業概要	持続可能な地域公共交通の創出に向けて、地域一体となり、協働で取り組んでいける仕組みづくりに取り組むもの。 なお、これらの取組を行うことで、更なる高齢社会が進展する中、市民がともに支え合う地域社会の育成の一環となり、地域コミュニティの向上などへの寄与を目指す。	
実施主体	市、交通事業者、地域住民、その他関係者	
事業実施の適切性 A：適切 B：概ね適切 C：不適切	C	新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが少なく、イベントと利用促進に係る取組とのマッチングが調整できなかった。
目標・効果達成状況 A：達成 B：概ね達成 C：未達成	—	未実施のため、評価せず。
事業の今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者等ターゲットを絞り、路線バス及び乗合タクシーを身近な存在（移動手段）として認識していただけるような取組を実施し、利用促進を図っていく。 福祉部門などの関係機関と連携した取組を検討する。 	

上天草市地域公共交通網形成計画

(平成 30 (2018) 年度～令和 4 (2022) 年度)

<評価・検証>

令和 5 年 5 月

上天草市地域公共交通活性化協議会

1 計画の達成状況の評価方法について

上天草市地域公共交通網形成計画（以下「形成計画」という。）では、目標達成状況について、上天草市地域公共交通活性化協議会が計画期間の年度ごとに施策・事業の実施状況等の報告・検証・協議を行い、計画の着実な進捗に向けたフォローアップを行っています。

また、地域公共交通を取り巻く状況が変化することが想定されることから、それらの状況に応じて適宜内容を見直すことが必要であるとともに、施策等の実施後においては検証・評価を行い、5年後の目指す地域公共交通の将来像や目標達成の実現に向けてPDCAサイクルを確実に実践し、検討を進めています。

2 計画の概要

(1) 計画策定に当たって

ア 目的

形成計画は、これまでの路線バスによる幹線・支線及び地域コミュニティバスの運行、また、交通空白地域を中心とした乗合タクシー等の運行に加えて、スクールバスとの重複路線の効率化等新たな地域公共交通を検討し、地域の実情に応じた持続可能な交通体系の計画を策定するものです。

イ 計画期間

平成30（2018）年度から令和4（2022）年度までの5年間

(2) 基本方針

市のまちづくりの基本目標（『子ども、若者、お年寄りが住み良い「活力」「誇り」「安心」に満ちたまちの実現』）を踏まえ、地域公共交通が果たすべき役割を明確にした上で課題を整理し、次のとおり4つの基本方針を定めています。

方針① 持続可能な地域公共交通網の形成

市民のみならず、観光客、更には日常的な利用者以外でも気軽に地域公共交通が利用できるよう、乗換え利便性なども考慮しつつ、分かりやすく、利用しやすい地域公共交通を確保し、持続可能な地域公共交通網の形成を目指します。その際には、多様な地域公共交通モードが有機的に結ばれ、一体的なネットワークとしての機能を確保できるよう考慮します。

方針② ターゲットや役割分担を明確にした地域公共交通体系の構築

路線バスや乗合タクシー、その他スクールバス等から形成される地域公共交通体系の構築に当たっては、地理的特性やその他地域特性を総合的に勘案し、地域に適した効率的・効果的な運行形態を検討するとともに、利用者のターゲットや各交通モードの役割分担などを明確にした地域公共交通体系の構築を目指します。

方針③ 地域公共交通の利用促進及び需要創発

現在の地域公共交通利用者の更なる利便性向上を図るとともに、地域公共交通の非利用者に対して地域公共交通を利用するきっかけとなる場の形成、更には観光客など、潜在的な需要の発掘を目的として、利用促進や需要創発に取り組めます。

なお、それらの取組により、市の財政負担の軽減など、持続的な地域公共交通の維持・確保につなげます。

方針④ 市民と一体となり持続可能な地域公共交通に関する仕組みの構築

地域公共交通に対する市民の意識改善を図るとともに、持続可能な地域公共交通の創出に向けて、地域（市民）と一体となり、協働で取組んでいけるような仕組みの構築を目指します。

3 計画の取組状況及び目標の達成状況

別紙のとおり

4 計画全体の評価・検証

平成 30（2018）年度から形成計画で設定した 9 事業に取り組んできましたが、人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響などにより、その多くが目標達成には至りませんでした。そういう中で、A I を活用した自家用有償旅客運送実証運行を行い、新たな地域公共交通の導入の可能性を探り、その有用性など確認でき、一定の成果はあったものと認識しているところです。

このほか、運転免許返納者に対する交通系 I C カードを無料提供するなど、利用促進事業に取り組むとともに、利用者から寄せられた要望等に対しては、交通事業者との協議を行い、また、広域で運行する路線バスについては、関係市町と協議するなどして、利用者ニーズに可能な限り応えるよう改善に努めて

まいりました。

形成計画全体の評価・検証としては、前述のとおり一定程度の成果があったものと判断しているところですが、人口減少及びマイカーの普及に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通の利用減少に歯止めをかけることはできませんでした。

そのように、公共交通においては、利用需要が落ち込み、交通事業者の経営状況に影響を与えていることや、担い手不足などの課題が発生しており、今後はこれまで以上に公共交通の維持・確保が厳しくなることが懸念されます。

このことから、持続可能な公共交通を構築していくためには、市民の移動ニーズや利用需要に見合った輸送手段を検討するとともに、公共交通は地域が創り守り育てていくという市民の意識醸成が重要となります。

形成計画の評価・検証及び地域公共交通活性化再生法の一部改正を踏まえ、令和5年3月に上天草市地域公共交通計画（以下「交通計画」という。）を策定しました。交通計画では、12事業を設定し、市民の移動手段を支える公共交通ネットワークの形成や公共交通の担い手確保、観光需要の取込み、市民の公共交通に対する意識醸成のため、交通事業者をはじめ、地域住民などと一体となって取り組んでいくこととしています。

方針	目標	施策・事業	具体的な実施状況	指標		H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	達成状況 A:達成 B:概ね達成 C:未達成	目標未達成の理由、問題点・課題				
方針① 持続可能な地域公共交通網の形成	目標① 地域公共交通の維持・確保	1. 地域公共交通網の見直し	・路線バス及びコミュニティバスのダイヤ改正 ・運転免許返納者に対する交通系ICカードの無料配布ほか	路線バスの年間利用者数	目標	177,151人	173,113人	169,076人	165,038人	161,000人	B	○ダイヤ改正などの運行の見直し及び利用促進に係る取組は行った。しかしながら、当該計画の期間において、当初予見できなかった新型コロナウイルス感染症及び燃料高騰等の影響が大きく、利用者数が伸び悩んだ。 ○交通事業者と連携しながら、更なる利用促進を図るための取組を推進していく。				
					実績	163,910人	154,615人	126,426人	121,821人	116,409人						
				路線バスの年間赤字補てん額	目標	99,311千円	97,733千円	96,156千円	94,578千円	93,000千円	B					
					実績	111,644千円	115,551千円	114,391千円	114,998千円	121,872千円						
				乗合タクシーの年間利用者数	目標	8,890人	8,890人	8,890人	8,890人	8,890人	A					
					実績	10,099人	11,530人	10,386人	9,867人	9,708人						
			乗合タクシーの収支率	目標	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	B						
				実績	30.7%	31.9%	29.8%	29.2%	27.9%							
			方針② ターゲットや役割分担を明確にした地域公共交通体系の構築	目標② 地域資源を活用した地域公共交通の導入	2. スクールバスを活用した地域公共交通の導入	スクールバスの運行状況の把握	スクールバスと路線バスが連携した新たな地域公共交通の導入地域数	目標	—	—	1件		1件	3件	C	○スクールバスの活用に係る課題の洗い出しができていない、目標未達成となった。 ○今後、スクールバスのみならず、多様な輸送サービスとの連携を模索していく。
								実績	—	—	0件		0件	0件		
				目標③ 新たな地域公共交通の導入	3. 新たな地域公共交通の導入	自家用有償旅客運送実証運行の実施	新たな地域公共交通の導入地域数	目標	—	—	—		0件	1件	B	
								実績	—	—	—		0件	0件		
方針③ 地域公共交通の利用促進及び需要創発	目標④ 地域公共交通に対する市民の意識改善	4. 地域公共交通座談会の実施 5. 事業所などを対象とした市全域でのノーマイカーデーの実施 6. 地域公共交通だよりの発行	地区説明会の実施 ほか	地域公共交通座談会の実施件数	目標	4件	4件	4件	4件	4件	A	○年度ごとにばらつきがあるが、目標達成とする。 ○引き続き、地域住民と意見交換等ができる場を設けていきたい。				
					実績	0件	1件	0件	0件	5件						
		市職員を対象としたノーマイカーデーの実施	市役所職員を対象としたノーマイカーデーの実施件数	目標	1回/週	1回/週	1回/週	1回/週	1回/週	A						
				実績	1回/週	1回/週	—	—	—							
	目標⑤ 観光客などの地域公共交通の利便性向上	7. 路線バスを活用したバスパック等の商品開発 8. 観光施設や商業施設と連携した地域公共交通の広報媒体作成	・快速あまくさ号のラッピング ・あまくさ乗り放題きっぷほか	路線バスを活用した観光施策の件数	目標	—	—	—	3件	3件	C	市の強みである観光面の強化や移住促進に向けて、引き続き関係機関と連携し、公共交通の利便性向上及び利用促進に向けた取組を推進していく。				
					実績	1件	2件	0件	0件	0件						
	目標⑥ 地域公共交通に関する新たな仕組みづくり	9. 地域イベントと連携した公共交通利用促進キャンペーンの実施	バス乗り方教室の実施	地域と連携した利用促進の実施件数	目標	1件	1件	1件	1件	1件	B					
					実績	0件	1件	0件	0件	2件						

令和5年度上天草市地域公共交通活性化協議会 予算書（案）

●収入

（単位：円）

款	項	目	節	予算額	算 出 根 拠
				当初	
1	繰越金	1	繰越金	159,396	令和4年度からの繰越
2	諸収入	1	雑入	14	預金利息
合 計				159,410	

●支出

（単位：円）

款	項	目	節	予算額	算 出 根 拠	
				当初		
1	1	1	1	報酬	66,000	委員報酬5人×2回
			2	費用弁償	28,000	委員費用弁償5人×2回
			3	消耗品費	5,000	会議準備品
	2	1	1	消耗品費	45,000	コピー用紙代 他
			2	役務費	10,000	通知等発送用通信費 振込手数料 他
			3	使用料	2,000	駐車場使用料500円×4回
2	1	1	1	予備費	5,410	
合 計				161,410		

令和5年度取組（案）について

上天草市地域公共交通活性化協議会では、令和5年3月に策定した上天草市地域公共交通計画に基づき、以下の事項に取り組みます。

- 1 意見交換会の実施（関連指標①②③④⑤⑥）
交通事業者をはじめ、地域住民及び関係機関と意見交換を行い、公共交通の利便性向上を図ります。
- 2 乗り方教室の実施（関連指標①②③⑤⑥）
バス又は乗合タクシーの事業者と連携し、高齢者や園児等を対象に乗り方教室を実施し、利用促進を図ります。
- 3 公共交通に関する情報発信（関連指標①②③⑤⑥）
路線バスや乗合タクシーなどの利用状況に関する機関紙を発行し、公共交通に対する関心度向上を図ります。
- 4 さんばーるバスターミナルの維持管理（関連指標①②③⑥）
当該施設を定期的に見回り、必要に応じ修繕等を行うなど、快適な待合環境整備に努めます。

【上天草市地域公共交通計画関連指標】

- ① 公共交通に対する満足度
- ② 路線バス及び乗合タクシーの収支率
- ③ 路線バス・乗合タクシーへの市民一人当たりの公的資金投入額
- ④ 観光客等の公共交通利用者数（快速あまくさ号、天草宝島ライン、湯島～江樋戸航路（島民以外））
- ⑤ 公共サービスに関する認知度
- ⑥ 公共交通利用者数（路線バス、乗合タクシー、湯島～江樋戸航路（島民））